

平成30年度第1回北海道子どもの未来づくり審議会社会的養育推進計画検討部会における主な意見等

項目	検討部会委員からの主な意見等(12/26)
(1)都道府県における社会的養育の体制整備の基本的考え方及び全体像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法改正の趣旨を踏まえることが重要。形だけ数値だけを追うような計画であってはならない。 ・ 計画は当初の見込みを立てた方向に行きがちであるので、出来るだけ柔軟な形で策定してほしい。
(2)当事者である子どもの権利擁護の取組（意見聴取・アドボカシー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの権利を代弁する方策等は、非常に難しいが、より具体的に検討してもらえるとありがたい。 ・ 権利保障が誤った考え方で使われると問題。十分慎重に検討してもらいたい。 ・ 家庭の中で、子どもの権利を主張し過ぎると、里親が子どもにどう接しているのか分からず、困惑してしまう。 ・ 権利保障は、子どもの年齢によっても、受け止め方が違う。
(3)市区町村の子ども家庭支援体制の構築等に向けた都道府県の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ H28 改正児福法において、市町村等も子どもの育成に大きな責任を負うことになり、求められる役割も変化している。 ・ 児家センの活用について、市町村との連携など、重層的な取組を検討すべきではないか。
(4)各年度における代替養育を必要とする子ども数の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミクロではなく、マクロな考え方で算出した方が良いのではないか。 ・ 国の計算式では、算出は難しい。柔軟性をもって、道の考え方で算出してはどうか。
(5)里親等への委託の推進に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里親に関する一連の業務を民間機関が本当に担うことが出来るのか。責任の問題もあり、難しいのではないか。 ・ 里親会として、フォスタリング業務全てを担うことは出来ないが、部分的に行政と連携して、出来ることから取り組んでいくことが望ましいのではないかと考えている。 ・ まずは、フォスタリング業務の整理が必要であり、行政と民間機関の役割分担を明確化して、議論すべきではないか。
(6)パーマネンシー保障としての特別養子縁組等の推進のための支援体制の構築に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的に判断し、子どもに養子縁組することが最善であると助言できる仕組みがあると良い。 ・ 養子縁組することが、子どもにとっての利益になるのか判断することは難しい。

平成30年度第1回北海道子どもの未来づくり審議会社会的養育推進計画検討部会における主な意見等

項目	検討部会委員からの主な意見等(12/26)
(7)施設の小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状でも職員の確保が難しい中で、小規模化等には更に職員が必要となり、実施は厳しい状況である。 ・ H23 に国財源を活用して、建て替えた施設が多い。返済が残る中で、国の方針が変わり、運営側として新たな対応は難しい。 ・ 地域分散化や高機能化を進めると言われても出来る状況にない。すぐに答えを出せる問題ではない。 ・ 乳児院では小規模化を進めてきている。今後は地域支援が必要と考えるが、職員の確保や定着、育成が課題であり、高機能化は課題が多いと感じている。 ・ 里親の立場としては、施設からの里親支援に力を入れてもらえるとありがたい。
(8)一時保護改革に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里親や児童養護施設等を活用した一時保護について、まずは行政側から構想を示していただきたい。 ・ 一時保護している子どもが、出来るだけ早期に通学できるような取組を検討していただきたい。 ・ 他県では、ファミリーホームを活用して、一時保護を実施している県もあると聞いている。一時保護は、短期間で子どもが入れ替わることになり、ファミリーホームなどの家庭的な環境の場での一時保護は無理があるのではないかと。
(9)社会的養護自立支援の推進に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退所した子どもの支援のために、自立援助ホームを立ち上げているファミリーホームが増えている。退所児童の支援のためには、自立援助ホームが多くあった方が良いのではないかと。
(10)児童相談所の強化等に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの養育は奥が深く、知見を持った職員がいないう中で、旭川市が児相として業務を行うことは難しいのではないかと。